第17回　龍河洞まつり

８月２６日、龍河洞で**第１７回龍河洞まつり**が開催されました。会場には多くの模擬店が立ち並び、ステージイベントなどのさまざまな催しで大いに盛り上がりました。

この日の来場者数は２,０００人を超え、夕方には洞内の照明を落とし、ちょうちんを持って入洞する暗やみ体験ツアー（無料）が行われ、親子やカップル５８１人が参加しました。

フィナーレに行われた打ち上げ花火の大きな音が山間にこだまし、大輪の花火に観客からはたくさんの拍手が送られました。

香北少年サッカー部準優勝

８月２０日に香美市農村広場で開催された**香北サッカーフェスティバル**（３年生以下の部）で、香北少年サッカー部が準優勝しました。

昨年の合併１０周年記念事業大会に引き続き、香北少年サッカー部が主催して開催された今大会には、高知市内のチームをはじめ、１６チームの参加がありました。

星と映画とミュージック

９月９日、健康センターセレネ広場で、**かほく星空劇場**が開催されました。これは、香北町青年団主催の野外イベントで、今年で３回目です。

日暮れを前に始まったステージでは、**Ｓａｍａｒｒｙ～高知大学アカペラ同好会Ｏｎ－Ａｉｒ～**と**スタジオチャレンジ・タップダンスクラス**が会場を盛り上げた後、**ディアズ**が登場。洋楽やフォーク、懐メロなど多様な音楽を披露し、その歌声で観客を魅了しました。

そして日が沈み、ステージに設営された幅１０㍍のスクリーンで映画・**キャスパー**の上映がスタート。約１,５００人の来場者が訪れ、香北の夜に行われたオシャレなイベントを楽しみました。

▲西岡快莉くん（左）と七夏さん

８月２０日に京都府立体育館で開催された**２０１７全日本青少年空手道選手権大会**で、西岡七夏さん（土佐山田町楠目）が組手９歳女子の部で優勝、弟の快莉くんが組手５歳男女混合の部で準優勝しました。

２人は極真会館高知香美道場で日々の練習に励んでおり、今年４月に東京で行われた世界大会では快莉くんが優勝。七夏さんは、同大会の決勝で敗れた相手に今回雪辱を果たし、見事王座に返り咲きました。

全国レベルで活躍する空手姉弟。今後のさらなる飛躍が期待されます。

香美市文芸　風の流れ

◆一般投稿作品◆　　広報委員会　選

マムシ怖し手探りさがす茗荷の子　　楮佐古きよ
カンナ咲き故里の庭しのばれる　　有澤　春江
星一つ手の届きたり鄙の里　　中村　紫乃
飛び込みし児らの飛沫や夏の川　　上池　児未
夏草に七十路の我も挑みけり　　高田　稔
蜻蛉翔つ姿香北の郵庁舎　　福留ともり
弾かれてホタル袋にある命　　森本　幸美
秋立つや川瀬にまじる風の音　　森本　純喜
ゴンドラの唄を聴きつつ秋に入る　　山﨑　貴子
後先がおかしく成りてレース編む　　山﨑　寿美
蟻地獄ほじる折り枝遠き日の　　岡本　初美
白き百合咲きて夫に供えけり　　畠山　千江
まだ青きゆのすのたまに蝶が来し　　三木　牧子
腰伸ばし汗拭く空は夕焼に　　原　茂

◆かがみ野俳句会◆

工房の鎚音漏る十三夜　　古川　信子
新涼や生かされしこと話し合ふ　　利根　弘子
千枚田上田下田に牛蛙　　森本　倢代
神池に案山子と思案村起し　　山﨑　鈴子
娘の声に戻る明るさ立葵　　中澤　美晴
ギター抱へ茶髪の少女蝉しぐれ　　坂元　道子
何気なき一言沁みる星月夜　　佐竹　洋子

◆美良布俳句会◆

秋桜手製の椅子の柔らかし　　岡本かほる
ひとつづつ灯を写しをりさくらんぼ　　明石ゆきゑ
敗戦日残りし山河荒廃す　　北村　幸子
思い出し笑い広げて草を刈る　　北村　里子
猛暑日とさらりと言いて予報官　　小野川順子
初盆を終えて厨に膳ひとり　　前田　芳子
声高に看護師の呼ぶ盆の明け　　中内ゆかり
鬼畜とは思へぬ相手敗戦忌　　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

川石の真白き秋を拾ひけり　　乾　真紀子
校庭は子等の声あり蝉の声　　奥宮かなえ
敗戦日兄は玉砕二十七　　堅山　高子
新涼や精密検査受けよとぞ　　久保内鏡子
立て上げし畝の影より秋立てり　　黒岩千英子
待ち合はす合図の日傘回しをり　　小松　隆之
風鈴の今年七個に孫の数　　小松　昇
端居して母の思ひ出妹と　　杉山　春萌
十二時のサイレン響く敗戦日　　野村　里史
秋扇あへかな風を生みにけり　　津田吾燈人
節くれの手に抱く曾孫夏帽子　　前田　智
平凡な日日を支ふる氷水　　前田　欣一
秋暑し梵字一文字握りしめ　　間﨑　和代
「山の日」を全く知らず山暮るる　　宮﨑　侃
ぶらさがる丈まちまちに長茄子　　宗石　愛喜
入道雲少し間抜けて雨となる　　森本　之子
夕蜩途絶へてよりの独りかな　　山﨑かずみ
月涼し夜明けの畑の菊を切る　　山中　晶子
端居して里を出ようか悩みをり　　山中　瑞輝
瓜漬けをいつも切らさず老夫婦　　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

マレーシア土産の錫の風鈴よ　　明石　韮生
畳の目素足にうれし今朝の秋　　大石　邦男
夕焼や偽の菩薩のいる酒場　　西内　道彦
夏空に捕手が泣いてる甲子園　　安丸　槙子
台風近づく透明な深海魚　　前田美智子
台風の眼の中にいてパンを焼く　　森田　菊恵
花火果てどっと我が身の空虚かな　　前田　小夜
八月や忘れ芋より芽が伸びる　　橋本　昭和
台風の去りてコーヒー香る朝　　笹岡　英世
筆山を揺るがし花火始まれり　　甲藤　卓雄
甲子園に校歌いくたび夏が行く　　樫谷　雅道
早場米届き八月十五日　　田村　一翠

今月のキラリ

秋立つや川瀬にまじる風の音

秋になると空気が澄み、遠くの音でもよく聞こえる。日頃あまり気にかけていなかった瀬音や、風にそよぐ草木の音までが新鮮である。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の１日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）FAX 53・5958